

# 壁を恐れず「はじめの一歩」を踏み出して



市国際交流員のストリンズ・インガさんが任期を終え、つがる市を離任することになりました。インガさんは平成26年7月につがる市に着任し、市長の通訳やバス市との姉妹都市交流など、市の国際交流・国際化のために幅広く活躍。いつも笑顔を絶やさず、多くの市民に愛されました。インガさんの3年間の思い出や国際交流員という視点から見た「つがる市」などについてインタビューしました。

なまりに染まっています。でも、「達人クラス」の強烈な津軽弁は難しいですね。

—好きな日本語と津軽弁を教えてください。

「ほえみ」という言葉がすごく好きです。言うときは自然と笑顔になりますよね。また「七転び八起き」ということわざからは、打たれ強く負けたくないという意志が伝わってきて、いつもそうありたいと思っています。

好きな津軽弁は「せばだばまいねびょん」。標準語が一つも入っていないところがおもしろいでしょう。

—国際交流員の仕事で印象に残っていることを教えてください。

バス市との交流事業をコーディネートしているところ、つがる市の人たちがバス市との絆をどれだけ大切にしているかが伝わってきて、とてもやりがいがありました。保育所訪問事業では子どもたちがとてもかわいかった。ちょっと気分が晴れない日でも、園児たちとふれあうことで元気をもらいました。広報のコラムでは、アメリカの文化などを紹介しましたが、市民の皆さんから「いつも読んでるよ」と声をかけてもらってうれしかったです。

また、交流員の仕事とは別ですが、着任して間もなく合併10周年のディズニーパーレード誘致活動に携われたことも印象に残っています。活動中は右も左もわかりませんでした。パレードをこの目で見るときに、「これほどすごい仕事に参加したんだ！」という実感がわいて、感激したのを覚えています。松の館の2階から見えていましたが、ミッキーが指を



福島市長の通訳を務める



着任当時のインガさん。緊張した表情です

—最初につがる市にきた時の印象を教えてください。

緑が多い風景が印象的で、初めて青森空港からつがる市へ向かう道中に見た木々の風景は忘れられません。

—つがる市の良かった点は？

自然が豊かで心地よく生活できる場所ですね。市民の皆さんも、都会に比べスローライフという落ち着いた暮らしているように感じます。また、皆さんの気軽に声をかけてくれるような温かい人柄も好きです。

—生活面で大変だったこともあったでしょう。

夏の暑さには苦労しました。故郷のミネソタは内陸部でカラッとしているので、蒸し暑いのは苦手です。また、社会人として初めての一人暮らしだったので、仕事と家事の両立が大変でした。

—津軽弁は理解できましたか？

日本語を覚えてきたはずなのに、はじめは全然理解できなかったです。でも今は慣れてわかるようになりましよ。先日、東京で出身地を聞かれ青森のつがる市と答えた時には「なまってるもんね」と、妙に納得されましたから。それくらい今では津軽の



インガさんも感激したディズニーパーレード



保育所訪問では子どもたちとふれあいながら英語や外国文化を紹介





バス市からの訪問団に日本の文化を伝える架け橋となりました

国際交流フェアでも大活躍

3年間、お世話になりました！  
へげな～！  
♡Inga

### ストリンズ・インガ

Strinz Inga  
米国ミネソタ州出身  
趣味：ウォーキング、森林浴、温泉  
好きな食べ物：てんぷらそば



さして投げキッスしてくれました。  
「つがる市の国際交流の状況をどう思いますか？」  
バス市との交流をとっても大切にしている素晴らしいし、これからもそれが発展していくと思います。積極的に国際化したいという意識がある。お互いに意見交換していい交流ができていますね。  
「つがる市の国際化において今後必要なことは？」  
もっとアピールすることが必要だと思います。例えば鶴田町と米国オレゴン州フットリバー市との姉妹都市交流は、今年で40周年を迎えますが、つがる市（旧車力村）とバス市とのつながりには1889年から続く長い歴史がある。このことをもっと強調して他の市町に負けないように国際交流事業を盛り上げてほしい。それが、将来を担う子どもたちの国際交流への興味・関心を高めることにつながると思います。  
また、多くの人は言葉も文化も違う人と接するときに不安を抱くと思います。言葉の壁は当然あるので、それを恐れないこと。力を抜いて、一回だけでも

気軽に話しかけてみてください。きっと簡単なことだとわかります。はじめの一步が大切！  
「今後の進路は？」  
医療現場での通訳の仕事をするという夢があります。それを実現するため、アメリカへ帰って通訳や翻訳の仕事しながら、医療の専門知識やさらなるコミュニケーション力などを身につけたいと思います。  
「最後にメッセージを」  
つがる市の皆さま、3年間大変お世話になりました。今後も大好きな日本とは離れられない私なので、絶対また遊びに来ます。  
「へげな！まだ来るよ！」



3年間の思い出を語るインガさん



バス市では、あらゆる場面で生徒たちの交流をサポート

